

# 今年はどうなる！世界の経済、日本の経済!?

～こんな時の資産運用とは!?!～

2009年1月31日（土）13:30～15:30

於：青少年プラザ 第2レクリエーションホール

## ◆ 世界経済の行方は

### <レジメ①>

**金融機関の損失は**

**サブプライムローン問題からすべての証券化商品の評価の問題**

**金融立国を目指した国の行方（アメリカ、イギリス、フランス、スイス etc）**

**金融恐慌の震源地がアメリカからイギリスへ**

—解説—

昨年からの世界恐慌の発端は信用不安、金融機関への不信がきっかけでした。その不信の原因が「証券化商品の評価」です。証券化商品は、わかりやすく言うと、不動産投資の「リート」のように、流動性のないものを紙切れにすることで、多くの投資家からお金を集めるスキームです。スキーム自体は複雑ですので割愛しますが、その対象が住宅ローンの証券化商品を、世界中の銀行や投資家がこぞって買いあさりました。

当時、オイルマネーに代表されるように、お金が余って仕方がなく、大抵の投資先にはお金を流して、新しい投資商品を物色していた状況でした。そこに得体の知れないサブプライムローンで造成された高利回りの証券化商品に目をつけ、それをAIGの倒産保険のようなもの（CDS）をつけてヘッジをかけて販売し、投資をしていました。商品自体の破綻もさることながら、AIG自体の保障も滞ったというのがサブプライムローン問題です。

このような商品をヨーロッパの銀行や本国アメリカの銀行が造成したり、投資したりと、それも少ない自己資金で大きなリターンを得る「レバレッジ」という手法でやりたい放題でした。こういう手法は投資銀行（日本では証券会社）の土俵だったのが、商業銀行（日本で言ういわゆる銀行）も次々と参入、市場も証券化商品への規制は甘かったので、どんどん造成しては評価を下げるという、まさに金融機関の信用をなくす状況に陥りました。

証券化商品は非常に評価がしづらく、いったい損失はいくらなのかははっきりしていないので、未だに信用不安という言葉が消えないでいます。

80年代後半から90年代前半の隆盛後の、いわゆるバブル崩壊後、アメリカやイギリス、スイスやフランスなどは金融立国を目指して復活しました。金融産業と呼ばれるものです。今、瀕死の重傷を負っているのは、この金融立国を目指した国々です。イギリスにいたっては、金融産業以外に世界的な産業に乏しく、また、ユーロという大きな通貨に参加していない割には影響力のあるポンドが、世界的にも売り易い位置にあることから暴落を続け、「イギリス発の世界恐慌の不安」とまで言われるようになりました。この状況からす

ればスイスフランも同様です。

## <レジメ②>

### 世界的に、公的資金で一般企業を救う 不良債権を直接買取る

—解説—

世界的に、政府や中央銀行は、公的資金を直接、金融機関や一般企業の不良債権を買い取って、バランスシートから負の財産を取り除く政策をとっています。こうなるとリスクはすべて国に移行することになります。

## <レジメ③>

### オバマ政権誕生による期待 減税と雇用創出（ニュー・ディール政策）

### 環境・エネルギー政策（New Energy for America）

500万人の緑の雇用の創出（グリーンカラー）

今後10年間で中東とベネズエラからの石油輸入をやめる

2015年までに米国産のプラグイン・ハイブリッド車を100万台規模に

再生可能エネルギー電力を2012年までに10%、2025年までに25%に

2050年までに温暖化ガスを80%削減

ITバブルを超える環境バブルの創出（IT革命ならぬ環境・エネルギー革命）

排出権取引による新しい金融の創出

気候変動枠組条約締約国会議（COP：Conference of the Parties）

COP15（デンマーク）がポイント

—解説—

オバマ政権がやろうとしていることは、減税と公共事業による雇用の創出であることは、いろんなメディアでも公表されているとおりです。ITバブルを凌駕する規模の環境バブルを作ろうとしています。

具体的にはプラグイン・ハイブリットカーを作る、それも米国産の車を作るということです。今のビッグ3に代わる「ニュービズ3」の誕生という話もあります。

さらに、オバマ大統領は京都議定書に批准するようで、それよりもさらに厳しい規制をCOP15で策定するようです。これには、排出権取引という新しい金融がついてきます。ITバブルは、結果として、金融を助けたことになります。やはり、なんと言っても金融なのでしょう。環境バブルも排出権取引という新しい金融取引の創出に繋がるのではと感じられます。価値のないものが大きな価値を生み出すという、ちょっと複雑な話です。

## <レジメ④>

### 国債の大量発行

強いドルと弱いドル 矛盾した立場

各国の為替介入容認？ カーターボンド？

—解説—

今後のオバマ大統領が行う政策に関して、日本円で 100 兆円では足りないと言われていています。財源として国債の大量発行は免れません。純増 100 兆円以上とも言われています。これだけの国債を買ってくれるところといえば、世界中の今の状況でも限られています。今や、世界第一位の外貨準備高をほこり、ドイツを抜いて GDP 世界第 3 位となった中国と、GDP 世界第 2 位の日本でしょう。

日本はバブル崩壊後、金融立国は目指さず、公共事業で立ち直ろうとしました。比較的金融が安定で、その結果、世界的円高になっていますが、円高は日本経済にとっては好ましくないのが、為替介入という形で米国債を買うというシナリオはどうでしょうか。

カーターボンド（外貨通貨建ての米国債）の発行も考えられます。カーター大統領の時にドイツマルク建て、スイスフラン建ての国債発行の経験があります。外貨が米国内に入り、それを売ってドルを買い戻せば、ドル暴落は防ぐことができます。

国債を買ってもらうには強いドルでないといけません。貿易赤字の解消ではドルは弱い方がよいでしょう。当面はドル安容認、徐々にドル高へ自然に流れていくという感じなのではないでしょうか。

<レジメ>

**Key-Word**

**4月2日 ロンドン金融サミット (G20)**

**ハイブリッドカー**

**中国 (世界第一位の外貨準備高・世界第三位の GDP)**

—解説—

カーターボンド発行など、おそらく 4月2日の G20 周辺で、なにかが行われると思われれます。中国の動向も要注意です。今やアメリカは、中国に最大の気を遣っていると思われれます。

◆日本経済の行方は

<レジメ>

**麻生政権の景気対策は 定額給付金の是非**

**ヘリコプター・マネー 政府発行券 (財務省)**

**3月末の本決算をどう迎えるか**

**株価の下支え 株式買取り機構**

—解説—

インフレを起こすには紙幣をばらまくことです。実は紙幣の発行は日銀だけでなく政府も行うことができるのです。これは一部でささやかれている話です。円高ですからいくら刷っても大丈夫ということでしょうか。もちろん、通貨暴落、インフレ懸念もありますので、そう簡単なことではありません。

3月末は日本では本決算です。このままでは金融機関の含み損は広がるばかりです。3月末までに、

何かの株価対策をしなければ、大変なことになります。政府が直接株を買うということも考えられます。

## ◆これからのライフプランは

### <レジメ>

#### デフレ懸念の再発

非正規雇用は3人に一人	派遣労働者	4.7%
	パートタイム労働者	22.5%

#### 派遣切りから正社員切りへ

#### 社会保障の危機

#### 今までの常識を疑え

#### 年金・医療・介護

#### 勝ち組に残るためには

### —解説—

国に頼る、会社に頼るという姿勢は改めなければなりません。頭ではわかっているが心で許せないということが、今の社会制度なのかもしれません。どんな状況下でも勝ち組に残るには、それぞれの考え方を切り替える必要があります。「頼らない」精神の確立です。そのためには自分でフリーマネーをいくら準備できるかです。

昨年、シリーズでセミナーを行いました。その各テーマは、堺屋太一さんの言葉を借りて、一回目が「知価の時代」、知っていると知らないでは大きく違うという話です。二回目が「時代を読む」、世の中の流れを見極めることが大事という話です。三回目が「変化に対応」、めまぐるしい環境に変化に順応することが大事という話です。四回目が「常識を疑え」、変化に対応するためにも固定観念を捨て、過去の教科書はいつまでも正しくないということでした。

フリーマネーを確保するには実際に大きなお金を運用している人に学ぼうということです。

～ 中略 ～

以下、あるところでのライフプランに関する質問に対する簡単な回答の紹介です

- 年金    ・年金運用という前に、実際に年金が将来貰えるのか？  
          → 年金制度はなくならないが給付額は削減
- 住宅    ・現段階では、持ち家が良いのか？賃貸が良いのか？  
          → 収入が安定しないので今借金は持つべきではない  
          ・住宅の買い時期と、住宅ローン金利の今後の展望について知りたい。  
          → 金利は低空飛行が続くし、住宅価格は確かに安い、ライフプランを考えて住宅購入を考えよう
- 保険    ・各種保険の理想的な加入比率年齢家族構成による見直の指標は。  
          → 保険は本当に必要かどうかから考えよう
- 運用    ・個人資産運用で、失敗しない工夫のアドバイスを伺いたい  
          → 損切りがポイント（必ずロスカットを）

その他 ・不況の今はただ耐えるしかないのか。何か手立ては在るのか？

→ 今は運用の絶好のチャンスです

## ◆こんな時の資産運用の方法は

### <レジメ>

今もっている投資信託はどうしたらいい？

これからの資産運用の方法は

#### —解説—

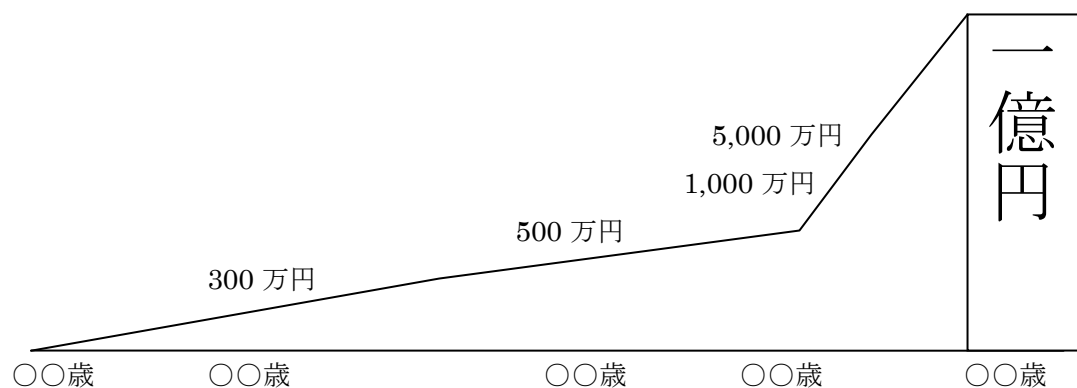
郵政の民営化後、郵便局が必死で投資信託を販売しています。銀行も手数料収入を確保すべく、保険や投資信託の販売に力を入れています。高齢者を中心に、「預金から投資へ」と、「預貯金から投信へ」と、財産を移動する提案を受け、長期投資の名のもとにリスク軽減の説明を受けて、多くの資産を投資信託購入に充てたと思われまます。おそらくその時の日経平均株価は 16,000~18,000 円ぐらいではないでしょうか。今の平均株価の2倍以上です。ここまで戻るまでは売れないでしょう。これは、投資信託が悪いという話ではありません。投資信託は「安値で買って高値で売る」商品であることを理解しようという話です。

政府や中央銀行は景気を良くするために仕事をしています。良くなるスピードは国によって（指導者によって）異なりますが、今後は良くなる方向に向かうと思います。長期投資のスタンスであるなら、保有しておくことです。ただ、どこまで待てるかが問題です。

これからの資産運用は、やはり短期投資と長期投資の併用でしょう。通常、投資・運用は、頭の中は絶対短期の発想です。そこは皆さん、胸に手を当てて考えてみるとうなずけるかと思います。

以下、昨年ずっと行っていた「目指せ！1億円への道」のレジメの抜粋です。

## ○ 目指せ！1億円への道



お金持ちは...

- ・ 必ずリスク・テイクしている
- ・ あらゆる手段を用いてリスクをリスクとしていない
- ・ 情報源を持っている
- ・ 情報を疑わない（まずは聞いてみる）
- ・ 情報を抱え込まない
- ・ 固定観念がない（頭が柔らかい）
- ・ 危機回避能力を持っている（鼻がきく）
- ・ お金は有効に使う（お金の循環）
- ・ 安定的（確実）な運用手法を持っている
- ・ 気持ちに余裕がある お金は常にあるものという発想

事業での成功者は

- ・ 事業に社会性がある
- ・ 利益は分配する（自分一人が儲かることはしない）
- ・ 必ず Win-Win
- ・ 欲をかかない（下後心は必ず失敗する）
- ・ もうけは社会に還元する

良きにつけ悪しきにつけ、お金持ちに学びましょう。評論より、実践現場に答えがあると思います。

今年、皆様にとって良い年でありますように...

微力ながら私どもがお役に立てますように...